No.9

私たちと大和川

～佐保川～

※写真は「鶯の滝」

第９回発刊の「私たちと大和川」では、大和川支流のうち２番目の規模で奈良盆地北東部を流れる「佐保川」を取り上げ、川の様子や周辺のおすすめスポットなどについて紹介します。

・水系／一級水系大和川　・全長／15km　・流域面積／131平方km

1. 概要

佐保川は、春日山原始林にある花山と芳山の谷間に発し、奈良市川上の三笠温泉郷を取り巻くように蛇行した後、西に向かって奈良市街北部を貫流、奈良市役所手前で南に向きを変え、大和郡山市内を経て、奈良県浄化センターのところで大和川（初瀬川）に注いでいます。
途中、奈良市八条で「岩井川」、大和郡山市観音寺で「秋篠川」、大和郡山市番条で「菩提仙川」、大和郡山市伊豆七条で「高瀬川」などが合流します。
佐保川は昔、平城京の東の堀川として左京を南に貫いており、陰陽道の思想から都の東を流れる“青龍”として位置づけられていたとのことです。

佐保川の源流部は、春日山原始林内にあり最奥には「鶯の滝」があります。高さ約10mほどの大きさで、水は岩肌を滑るようにひっそりと流れています。名前の由来には諸説ありますが、江戸時代からの名所であり、その静けさから近年では心霊スポットともいわれています。
付近には柳生街道（春日大社から柳生までの約19kmをいう）が通っており、柳生十兵衛の弟子である荒木又右衛門が試し斬りをしたと伝わる「首切地蔵」、夕日が当たるとお姿が浮き出てくるといわれている「夕日観音」など、古来からの多数の石仏をみつけることができ、古の剣豪たちの往来を感じることができます。
また、中流部の奈良市法連、芝辻あたりは、古くから堤の両側に桜並木があり、遊歩道も整備されていることから、春になると花見客で賑わいます。江戸時代には「南都八景」の一つとして「佐保川の蛍」があげられていました。
佐保川には多くの支流が合流しており、上流部に比べると下流部の水の汚れが目立ちますが、地元住民の方や流域の関係者の方々の努力により浄化が図られています。
佐保川に限らず、地域住民の方々の意識と協力が、大和川の浄化につながっています。

大和信用金庫
http://www.yamato-shinkin.co.jp/

よみがえれ！ 大和川清流復活ネットワーク
大和川清流復活大作戦
http://www.yamato-river.net/

周辺のおすすめスポット

①稗田環濠集落（ひえだかんごうしゅうらく）

稗田環濠

環濠集落とは周囲に濠を巡らせた集落のことで、近畿地方、特に奈良県でかつて多くみられた集落形態を指し、戦国時代に外敵からの防衛・用水確保の為に発達したと考えられています。

中でも佐保川沿いにある大和郡山市稗田町の環濠は、現在でもほぼ完全な形で残存する大和の環濠集落として有名で、市文化財にも指定されています。

稗田は、日本最古の書物『古事記』編纂者の一人、稗田阿礼（ひえだのあれ）を主祭神として祀る古社である賣太神社（めたじんじゃ）を中心に発達した集落で、西側と南側は道幅が広く、T字形に交差したり袋小路になっていて、遠くが見通せない防御に適した構造となっています。

稗田環濠集落に関する最も古い資料「経覚私要抄」（室町時代僧侶経覚の日記）には、1444年に大和の国人である古市胤仙（ふるいちたねのぶ）が稗田に陣を敷いたこと、1479年に筒井氏が稗田を焼討ちしたことなどが書かれています。

入り組んだ路地の左右に立ち並ぶ民家の土壁に沿って堀が静かに水をたたえる様子は、なんとも風情があります。

②和爾下神社（わにしたじんじゃ）

和爾下神社

高瀬川沿いの天理市櫟本にある和爾下神社は、927年に編集された全国神社一覧「延喜式神名帳（えんぎしきじんみょうちょう）」にも記載されている由緒ある神社で、素盞嗚命（すさのうのみこと）、大己貴命（おおなむちのみこと）、櫛稲田姫命（くしいなだひめのみこと）が主祭神として祀られています。

大和志（1736年）には、『一座は櫟本村にあり、号して上治道の天王といい、近隣五村共に祭祀に預る。』とあり、下治道の天王と号される大和郡山市横田にある和爾下神社と共に記されています。

また、和爾下神社は古墳（古墳時代前期）の上に建てられており、この古墳から東北約800メートルには和爾の集落があることから、周辺一帯が古代大和政権の一翼を担った和爾氏の本拠とされています。

和爾氏は葛城氏に並ぶ勢力を誇った大豪族で、同族には春日氏、櫟井氏、小野氏、柿本氏などがあり、小野妹子、柿本人麻呂などの学者や文人を輩出しています。

櫟本地域には、今でも和爾氏との関わりを伝える場所や遺跡が多く残されており、この地域を巡る「はにわの里コース」（約10キロのハイキングコース）は、古の大和にふれることができます。

③平城京羅城門跡（へいじょうきょうらじょうもんあと）

平城京羅城門は、平城京の中央を南北に貫くメインストリート朱雀大路（道幅は70m、距離は約3.7ｋｍあったといわれています）の南端に位置し、平城京の正門にあたります。

門の高さは約20m、間口は約40mあり、その両翼には高さ約6メートルの羅城（城壁）が築かれていたとのことです。発掘調査では、大和郡山市観音寺町の佐保川西側堤防の真下から門基壇などが出土しています。

また、朱雀大路の北端には近年復元された朱雀門が建ち、当時は、唐や新羅などの使節賓客が羅城門から朱雀大路を通り、朱雀門から入宮していたと思われ、『続日本紀』にもその記述が残っています。羅城門では、雨乞い行事が行われたりもしており、単なる門以上に重要な施設であったことが窺えます。

平成22年にオープンしたイオンモール大和郡山（大和郡山市下三橋）の建設に伴った発掘調査では、それまで平城京の南限とされていた羅城門のある九条大路の南側に、十条大路があったことが確認されました。ただ、十条大路は遷都から20年後には埋められており、その理由はわかっていません。

いずれにせよ、歴史的に重要な羅城門は、今は佐保川の河原に雑草に覆われながら石碑を残すのみであり、復元された朱雀門の壮麗さに対し、非常に寂しい姿を見せています。

羅城門跡石碑

羅城門橋から朱雀門方向

＜参考＞・http://agua.jpn.org/yamato/saho/saho.html
・http://www.kasugano.com/kankou/genshirin/
・http://www.geocities.jp/moriysilver/YuuhoClub60.htm
・http://blog.goo.ne.jp/fineblue7966/e/dc15a2fbbfddddd682dfc96187b72abc
・http://yamatotk.web.fc2.com/tenri/wakushitajinjya.htm
・http://kanko-tenri.jp/kanko guidance/hokubu/wani.html
・http://www.nantokanko.jp/mytown2010063.html
・http://agua.jpn.org/yamato/saho/iwai.html
・http://agua.jpn.org/yamato/saho/bodaisen.html
・http://agua.jpn.org/yamato/saho/takase.html

県内大和川地図

主な佐保川支流

①岩井川（いわいがわ）

奈良市白毫寺の高円山東側の山中に発し、県道80号線に沿って西へ山を下り、奈良市鹿野園を貫流し南京終で能登川と合流した後、大和路線を通過し奈良市八条で佐保川に注ぎます。2008年には、上流に岩井川ダムが建設され洪水を防いでいます。

左 佐保川 ・ 右 岩井川

②菩提仙川（ぼだいせんがわ）

奈良市北椿尾の城山付近及び菩提山北端の鉢伏峠から南西に流れ、天理市北部を貫流し、大和郡山市番条で佐保川と合流します。

菩提仙川上流の水は、近世まで造り酒屋の仕込み水として使われていたほど水質がよく、上流の奈良市菩提山にある正暦寺は日本清酒発祥の地とも言われています。このような理由から同所の水は「やまとの水」の１つに選ばれています。

「やまとの水」は古くから地域の人々の生活と密接に関わり守られてきた清澄な水で奈良県が選出したものであり、松尾寺霊泉（大和郡山）、桃尾の滝（天理）、吉祥竜穴（室生）など36箇所が選定されています。

左 佐保川 ・ 右 菩提仙川

③高瀬川（たかせがわ）

天理市福住の桜峠付近を源流とし、奈良市米谷と天理市石上の境に深い谷を刻み、国道25号沿いに流れて天理市櫟本を貫流、大和郡山市伊豆七条（中央市場東側）で佐保川に流れ込みます。

高瀬川支流楢川には白川ダムが建設されており、高瀬川と楢川の洪水を防いでいます。

左 佐保川 ・ 右 高瀬川

佐保川は大和郡山市額田部・川西町吐田付近（県浄化センターの南）で本流の初瀬川に合流、「大和川」に名前を変え、「曽我川」「富雄川」「竜田川」など奈良盆地内の大半の河川を合わせた後、亀の瀬渓谷を抜け大阪府へ流れています。

手前 佐保川 ・ 奥 初瀬川

大和信用金庫では「『Next Generation ～未来へ～』
次世代のために、私たちは歴史と環境を大切にします。」
をテーマにＣＳＲ活動に取り組んでいます。

お問い合わせ：大和信用金庫　ＣＳＲ委員会事務局　０７４４－４２－９００１